



## 企画展「模擬原爆パンプキン—市民が明らかにした原爆投下訓練」

2020年4月7日(火)～6月6日(土)

8月6日広島に原爆を投下したB-29エノラ・ゲイ号は、その10日前に名古屋上空に侵入し、パンプキン(かぼちゃ)と名付けられた1万ポンド(4.5トン)の大型爆弾を昭和区に投下していました。原爆投下専門の部隊「第509混成群団」は2発の原爆以外に、原爆投下訓練として50発のパンプキンを全国17都府県30都市に投下していたのです。この事実は戦後45年以上経って、愛知県内の戦争を調べている市民団体の粘り強い調査で明らかになりました。

この報告が伝わると、全国各地で着弾場所や被害を調べてまとめたり、実物大のパンプキン模型を作ったり、着弾地に碑を建てたり、慰霊祭を開催するなど、活発な活動が始まりました。また、手作りのミュージカルの上演や、児童文学作品のテーマにするなど、継承の取り組みも広がっていきました。今回の企画では、30年続けられてきた愛知県内外のパンプキン調査活動と継承の取り組みを紹介します。

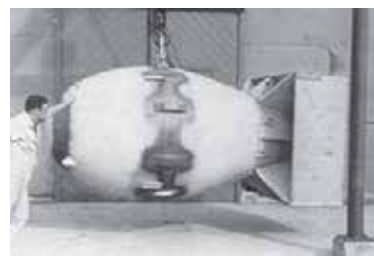
**模擬原爆パンプキンの実物大イラスト**、18キログラムもあるパンプキンの破片、原爆投下部隊の隊員に配布されたアルバムなど、日頃見ることができない資料の展示もあります。4月7日(火)午前11時から展示解説、4月18日の午後1時30分から各地の代表者が報告する「模擬原爆パンプキン交流会」を開催します。



原爆投下部隊のアルバム



模擬原爆パンプキン(米国立公文書館)

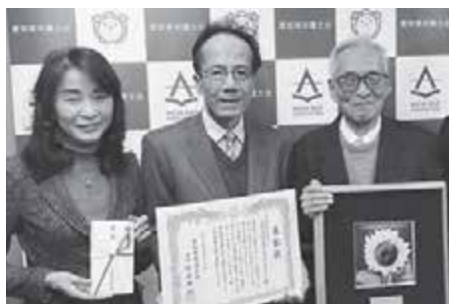


長崎に投下された原爆ファットマン

### 愛知県弁護士会の第31回「人権賞」を受賞

「ピースあいち」を運営するNPO法人「平和のための戦争メモリアルセンター」が愛知県弁護士会の人権賞を受賞し、2月18日に授賞式がありました。

戦争はもっとも人権を蹂躪するものです。「日本国憲法」第11条には、「この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる」とあります。宮原大輔館長は、「戦争を起こさないよう、これからも悲惨な戦争の歴史を後世に伝えていきたい」と、授賞式で語りました。



授賞式に参加したスタッフ(左から、熊本運営委員、宮原館長、庭山事務局次長)

**訃報** 当法人の理事長 野間 美喜子が、逝去いたしました。

当法人の理事長、「ピースあいち」初代館長の野間 美喜子が2020年3月1日、急性心不全のため逝去しました(満80歳)。ここに生前のご厚誼を深く感謝するとともに、謹んでお知らせいたします。

野間は、1962年名古屋大学法学部卒業後、1964年弁護士登録。民事事件を中心に活動し、四日市公害訴訟、新幹線公害訴訟、予防接種ワクチン禍訴訟などにも携わりました。1989年には名古屋弁護士会副会長を務めました。戦争体験と平和憲法への思いから、先の戦争について次世代に伝えていく場所が必要と、1993年「戦争メモリアルセンターの建設を呼びかける会」を結成し、事務局長を務めました。

2007年には「戦争と平和の資料館 ピースあいち」を開設し館長に就任。以来、弁護士の仕事をセーブし、「ピースあいち」の運営に力を注いできました。

関係者一同、深い悲しみにありますが、野間の遺志を大切に、力をあわせて、「ピースあいち」を運営していきます。後日、お別れの会を開催する予定です。



**ピースあいち戦後75年プロジェクト**

—戦争体験集・映像アーカイブ・語り継ぎ手の育成—

「ピースあいち」は開館当初から戦争体験者の語りを事業の一つとし、「ピースあいち語り手の会」を結成、戦争体験の語りとともに、それを体験集やDVDに記録してきました。戦争体験者が高齢になるなか、そうした体験の記録保存は急務となっています。

また、今後、戦争体験者が減り続けるなか、戦後生まれの語り手の育成は必須です。そこで、「語り継ぎ手の会」を結成し、その方法を模索してきました。

2020年はアジア・太平洋戦争の終結から75年になります。これを契機に、次のように、「戦争体験の記録保存活動」と「語り継ぎ手の育成」をさらに推進していくことにしました。詳細については、適宜、紹介していきます。



1. 「ピースあいち語り手の会」以外からも戦争体験を広く募集し、体験談集を発行する。
2. 今まで記録してきた戦争体験談のDVD、新たに記録する映像について、戦争体験の語り継ぎ活動や社会教育で広く活用できるよう、編集し映像アーカイブを制作し、ライブラリーを整備する。
3. 戦後生まれの「戦争体験の語り継ぎ」希望者を新しく募集し、育成事業に着手する。

**企画展「福島を忘れない 原発事故から9年**

—ピースあいちスタッフによる写真レポート—

開催中～5月7日(木)

東日本大震災・福島第一原発事故から9年が経ちました。東京五輪の今年に、福島など被災地の復興がアピールされています。本当に復興は進んでいるのでしょうか? 「ピースあいち」のスタッフが今年1月に飯舘村と大熊町へ行き撮影した写真レポートと、



福島原発事故の経緯と現状を展示しました。復興の現状を見つめ直したいと思います。

協力：NPO法人チェルノブイリ救援・中部

## これからの企画展・イベント

### 沖縄展

#### 「闘いの島 オキナワ」

6月16日(火)~7月11日(土)

「ピースあいち」は、2008年からほぼ毎年、沖縄展を開催してきました。今年はいくまでの沖縄展を振り返り、準常設展とすべく、40枚程度のパネルを作成することにしました。

その内容は、Ⅰ琉球から沖縄へ、Ⅱ沖縄戦前夜、Ⅲ沖縄戦、Ⅳ沖縄戦の承継、Ⅴ沖縄戦後(米軍の占領から復帰まで)の5ブロックです。今年の沖縄展は、そこから20枚程度のパネルを選んで展示する予



沖縄戦以前の首里城の絵葉書=1945年5月、米海兵隊撮影(沖縄県公文書館所蔵)



現在の首里城

定です。

また、2019年10月31日の首里城の火災は日本人、とりわけ沖縄の人々には大きな衝撃を与えました。首里城の歴史から現在の様子までを見ることができます。

### 企画展

#### 「戦争とスポーツ

~戦時下、時代に翻弄されたスポーツ選手たち~

6月16日(火)~7月11日(土)

本来は対極にあるべき戦争とスポーツ。輝かしい功績を残しながら戦地で散った戦没オリンピック、スポーツに青春を捧げるなか戦地に赴いた学生たちなど。あの戦争がなければ彼らはどうなっていたでしょうか。

戦争によって翻弄されたスポーツ選手たちの人生から、戦争とは、平和とはを問いかけます。



### 写真展

「ピースあいち」近くの

#### 「平和公園で観られる野鳥たち」

5月9日(土)~5月30日(土)



「ピースあいち」近くの「平和公園」は、戦災復興土地区画整理事業で整備された墓園で、今は緑が多く市民が気軽に利用できる公園になっています。

平和が丘野鳥の会会員が撮影した野鳥たちです。

#### 「第4回学生の日」

6月21日(日)



次世代交流チームのイベント「第4回学生の日」を開催します。

前は各大学の先生方のご協力とご厚意をいただき、授業にお邪魔をさせていただくなど告知に注力しましたが、その甲斐もあり、とても盛り上がりました。少しずつですが確実に来館者も増えており、今回もたくさんの方との出会いを期待しています。

# 平和へのメッセージ

<sup>いさか</sup> 諍いは多くの場合、不平等から始まる。お兄ちゃんとおやつを食べるとき、しばしば、お兄ちゃんが大きい方を取ってしまう。悔しいから泣きわめいて抗議するけれど、体力的にかなわない。それでも捨て身でつかみかかり、結局、負けて不愉快だけが残る。国と国との国際的紛争もこれに似ている。強い国が弱い国を力づくで侵略し、負けた弱い国には悔しさと恨みだけが残る。でも実は、この諍いにも解決法はちゃんとある。「不平等を平等に近づけること」。強い方がおらかな気持ちを持って、ほんの少しだけ弱い方に譲ればいい。それぞれの人の戦争観、平和観のメッセージを読むたびに、そんなことを頭に浮かべている。

## 未来の戦争

これまで平和国家とされてきた日本のあちこちに、いま深い裂け目が生じています。そこでは人びとが苦悶の声をあげています。

県民投票の結果を無視して進められる米軍基地移転に抵抗する沖縄の人たち。原発事故で故郷を失い、いま避難先の住居まで奪われようとしている自主避難者たち。紛争や迫害を逃れてたどり着き、難民認定の厚い壁を前に絶望的な日々をおくる亡命者たち。出自を理由にいわれなき嫌悪にさらされ、差別される在日コリアンや中国人……。

社会を分断するこの裂け目は、ただの一時的なものとは思えません。政治と偏向的な言論が結びつき、そこに排他感情（あるいは恐怖）にとらわれた市

劉 永昇  
(風媒社 編集長)



民が反応することで「暴力」が生まれる。私たちは「あいちトリエンナーレ」の表現弾圧で、それを目の当たりにしました。また書店に並ぶ数多くの嫌韓本・反中本を見ると、メディアもまた排外主義に加担していると言わねばなりません。深刻なことに、多様性を尊重すべき表現の分野でも排除の原理が進みつつあるのです。

濃度を増すヘイトの空気は、やがて「現在の平和」を「未来の戦争」へと押しやってゆく危険をはらんでいます。平和と戦争——、対極的なこの二つの言葉がつねに延長線上に存在してきたことを、決して忘れてはならないと思います。

## 「私の平和」

私は1944年11月に生まれ、生後9ヶ月で広島で原爆に遭い被爆者になりました。子どもの時から病弱な子として育ちましたが、今を生きています。被爆について何も語らなかった母を亡くしてから、被爆者活動に参加し、筆舌に尽くし難い苦痛の中で生きてきた被爆者の実相を知りました。被爆者の願いは大きくは2つ、「核兵器を無くし世界のどこにも再び被爆者をつくらない。国は生き残った被爆者の援護をする」ことです。

生き残った私たちにできることは、被爆者体験を語り、平和の尊さを、戦争の恐ろしさを伝えることです。小学生から大人まで語りますが、戦争が人類にとって何一つ役に立たない恐怖は伝えられても、「平和の大切さ、尊さ」について伝えられたか、いつも自問自答し、時に落ち込み、時に喜びながら常

金本 弘

(愛知県原水爆被災者の会・理事長代理)



に平和について考えています。

あの日から75年を経た今も、原爆症認定を国に求め裁判に訴えています。2月25日の最高裁の判決—経過観察の通院は要医療性を認めない—に愕然としました。

今、世界の情勢をみると中東戦争、難民と貧困問題、気候変動による災害、そして今年に入ってウイルス感染など、決して平和とは言い難い事象が多くあります。私たちが考えている「平和」について、改めて考えてみる必要があると思います。

今の「私の平和」は、日本国憲法九条を堅持し世界に広めていく、そして25条の健康で文化的な生活を営む権利を追求し実現化させていくことが大切だと考えています。

## 反戦・反核のアメリカ史展示が優勢に

2020年2月17日、ワシントンとリンカーンの誕生日を記念した大統領の日 (Presidential Day) に、ワシントンDCのスミソニアン群の一つ、アメリカ歴史博物館を訪れました。そこでは、"Price of Freedom: America at War (自由の代償：戦争のアメリカ)" という常設展があります。911テロ後にできた、アメリカがいかにか戦争によって自由を勝ち得てきたという趣旨の展示です。原爆や戦後の核開発競争についても、基本的に正当化した展示です。

ところが今回は、ある違いがありました。それはベトナム戦争に関する展示が大幅に変わっていたのです。ベトナム戦争についてクリティカルな検証をしたドキュメンタリーを上映し、ベトナム反戦運動・ミ

高橋 博子  
(奈良大学教授)



ライの虐殺を含む、写真群の展示コーナーができていました。ジェーン・フォンダが反戦運動で逮捕された写真やウッドストックのポスターなどなど。スタッフの人に聞くと、定期的にリノベイトするものなので、多分数年前に設置されたのでは、とのこと。特に「対テロ戦争」後弱まっていた、多様なバックグラウンドの人が権利を獲得してゆくアメリカ史展示、反核・反戦のアメリカ史の展示、民主主義についての展示と、かつてのアメリカ史博物館らしい展示が戻っていたのです。

好戦的アメリカ史展示vs反戦・反核のアメリカ史展示。後者が優勢になっているのを確認できたアメリカの旅でした。

## 疎開地に戦争の足音が

私の住所は愛知県日進市岩崎町。45年前名古屋から移った。我が家の2階から日進の御嶽山が見える。その昔、国民学校5年生の時、名古屋から空襲を避けるため集団疎開でこの山の頂上にある社務所に住むことになった。その日からひもじい、寂しい暮らしが終戦まで続いた。勉強の時間はほとんどなく、戦いに備えて、なぎなたや竹やりの訓練に明け暮れていた。空襲の戦火を直接浴びることはなかったが、お山から見る名古屋は、照明弾・焼夷弾で真っ赤に燃えていた。

一番辛かったのは山の麓の井戸からの水汲み、小さな肩に天秤棒がずしりと食い込んだ。野菜運びも。芋やかぼちゃをかついで山を登る途中、かじった大根のおいしかったこと……。

野垣 節子  
(元ラジオプロデューサー)



時には家が焼けたり親が亡くなった友達が名古屋へ帰るのを半ばうらやましくこの道から見送った。面会日には名古屋から父や母が差し入れの食べ物をもってこの山道を登ってきてくれた。

あれから73年、険しいでこぼこ道はきれいに整備され、つまらない思い出の詰まったこの道は今では私のお気に入りのウォーキングルートとなっている。道沿いの桜やあじさいが今年も美しい。これも一世近く平和が続いているおかげ。

ところが、最近、自衛隊がこの近くで対空ミサイルの訓練をおこなった。

集団疎開再現の道は真っ平。その道はもう「いけません。」(日進の方言)

## コタツの消し忘れ

春先になってもなかなかコタツが手放せない。そんな時にはつい消し忘れが多くなる。

「ゆうべコタツ消し忘れたでしょう。」寝ぼけ眼をしょぼしょぼさせて居間に入ったとたん妻の声。

「まったくあなたときたら、いつもそうなんだから。最後に部屋を出る時にはきちんと……。」

消し忘れたのは私が悪いが、そんなふうに言われると、ムカッと腹が立つ。

「いつもって何だよ。コタツの消し忘れはまだ二回目だぜ。」という言葉はぐっと胸に収めて、表面上はひたすら謝る。もしそんなことを言おうものなら、「いつもというのは電気の消し忘れのことよ。この前だつて……」とさらに何倍も攻撃されるに決まっているの

岡田 忠昭  
(愛知詩人会議「沃野」編集長)



だから。

そんな話を、ついうっかり一人暮らしの友人にしてしまった。すると彼は「腹を立てる相手がいていいね。」とやさしく返してくれた。

最近しみじみと感じるようになった。喜怒哀楽と言うけれど、喜びや楽しみだけでなく、哀しみや怒りでさえも、私たちの生活を彩る大切な感情なのだということ。

そしてその感情も今が平時だからこそ持つことができる。戦時にはすべての人間的な感情が奪われてしまうという。

ムカッとすることも含めて、人間的な感情を大切にするためにも、みんなで平和を守っていきたい。

**報告** 丸木位里・俊「原爆の図」と大津定信展—核兵器のない世界のために

2月4日～3月28日

2月4日～3月28日まで、「原爆の図と大津定信展」が開催されました。ICANの活動や核兵器禁止への道を紹介するコーナーも設けられ、7枚のパネルが展示されました。会中にはICANの運営委員である川崎哲さんの講演が行われました。2月29日(土)に行われる予定だった丸木美術館学芸員の岡村幸宜さんと大津定信さんのギャラリートークは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら中止されました。

**ずっしりと心に残る大津さんの絵**

大津さんは2002年にニューヨークを訪れた時、「9.11同時多発テロの地に立ち、原爆は人類最大のテロである」と考え、帰国後、広島・長崎・沖縄を題材にした絵を描き始める。実際に現地にも行き、砂や土、木の枝、水などを集め、それらを使い作品を作った。今回は、その中から5作品を展示した。

書家から出発した大津さんらしく墨絵風に描かれた作品である。見ていて、絵が語り掛けてくるようで心に響く。

**参観者の感想**

- 丸木さんの「原爆の図」。当時の広島の人々の惨状を明らかにして、心を打たれた。大津さんの作品制作のビデオ見て、身体を使っただけの作品と言うのがよくわかった。
- 「原爆の絵画」に現地の砂などを含める発想に感心しました。当時の国家が発行した公文書等、人々をコントロールしていく仕組みがよく理解できる展示内容でたいへん勉強になりました。また、機会を見て再訪したいと思います。

**関連イベント**

「核兵器禁止条約で世界は変わるか？」講演会  
2月8日(土)

講師：川崎 哲さん  
(ピースボート共同代表、ICAN国際運営委員)



2012年からピースあいちが開催している丸木位里・俊「原爆の図」展は、サブタイトルに『核兵器のない世界のために』と表現しました。満席の会場で、川崎さんのお話も次第に熱が入ってとても分かりやすく、「核兵器禁止条約」の内容をよく理解できました。

今回の「原爆の図」展では、「愛知県原水爆被災者の会(愛友会)」「核戦争に反対する医師の会」にも協力いただき、講演会の中で金本代表、中川事務局長からもお話があるなど、今までにない講演会となりました。核兵器廃絶に向けて「核兵器禁止条約」の批准と唯一の被爆国・日本の参加が欠かせないことを強く心に刻むことができました。



大津定信さんの作品



原爆の図第二部(火)



「核兵器のない世界のために」コーナー



女子美術学校時代に同級生に贈った丸木(赤松)さんの絵(今井美代子氏所蔵)



来館者とお話する大津さん



宮原館長による解説

シリーズ

平和を守る仲間たち⑧ 豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会

豊川市は豊川海軍工廠発足とともに市となり、1945年8月7日の爆撃で2500人を超える犠牲者を出している。だからこそ海軍工廠にまつわる文化活動や語り継ぎが行われてきた。

「豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会」は、戦後50年の翌年5月に発足し、跡地を所有する名古屋大学や市に工廠跡地の保存・活用を要請する活動や、夏・冬の工廠跡地見学会を市・市教育委員会の後援のもと実施してきた。

工廠跡地の保存を求める多くの声や市長選での公約に跡地保存と資料館が盛り込まれた事を機に、市は工廠跡地の保存・活用に前向きな姿勢を示し、

市独自の遺構調査も行われた。

2013年9月定例市議会で跡地の平和公園(仮)と平和資料館(仮)建設に向け検討委員会設置が可決。すすめる会へも代表1名の派遣要請があり、議論をリードしてきた。公園を案内するボランティアガイドも1年をかけて養成され、2018年6月に「豊川市豊川海軍工廠平和公園」が開園した。現在まで7万人を超える人々が来園され、市内の小学校6年生は全員、年1回の研修(見学)に来ています。

名大内の遺構見学は年4回に増え市教育委員会主催になり、すすめる会独自の見学会は、今後工廠跡地以外にも広げていく予定です。

(事務局長 山田賢治)



豊川市豊川海軍工廠平和公園



ピースあいちも参加したすすめる会の見学会

ボランティアの窓

カンボジアの国境で感じたこと

浅井 和子

昨年10月、世界遺産に惹かれカンボジアを訪れました。今回は、カンボジアにある3つの世界遺産—アンコール遺跡群、プレイビア遺跡、2017年に登録されたサンボー・プレイ・クック遺跡群のすべてを訪れました。



プレイビア寺院は、タイとラオスが見渡せる国境の天空の城です。9世紀クメール王朝によりヒンドゥー教の寺院として建築、後に仏教寺院として増築されました。クメール語で神聖な寺院と様々な神が住んでいる聖域とされている場所です。タイとの紛争が絶えない地域でした。1962年に国際司法裁判所がプレイビア遺跡をカンボジア領として認め、2008年に世界遺産に登録されました。遺産に登録されるとユネスコが入り戦闘が治るから決断したとの事でしたが、事態は悪化。2012年タイの政権交代でようやく落ち着きを取り戻し、観光できるようになった哀しき世界遺産でもあります。今でも、紛争に備え兵士が配備されていました。ガイドさんは仕事がない日は兵士として警備に当たっているそうです。お父さんは戦死したそうです。

地雷が撤去され解放されたサンボー・プレイ・クック遺跡の上に登ると、見渡す限りのジャングル。この中にはまだ地雷が埋まっているそうで、解放された場所以外は行かないように注意を受けました。自由にどこに行っても危険のない日本は平和で良かった。

ピースあいちの世代交代を実感中

岡村 裕成

ピースあいちに関わって11年になります。当初、自分がピースあいちのスタッフの中で一番若かったのですが、現在ではもう真ん中くらい、新たな世代による「学生の日」という、学生向けの企画が開催されるほどになりました。若い世代がピースあいちに関わってくれるようになったのは嬉しく思います。



また、その若い世代へという意識が出てきたことで、企画展も平和や戦争をテーマにしつつも、切り口を変えて、絵画や漫画、文学、若者たちなどの多彩なものから考えてもらうものに変化してきました。原爆の図やはだしのゲン、漫画家たちの描く8月15日をテーマにしたものや、竹内浩三やわだつみの声のように戦争のせいで自分の夢や命を絶たざるを得なくなった若者の人生…。自分も新たに学ぶことができ、興味の幅が広がりました。

また、大学とのかかわりも増え、大学からの講義の依頼や連携しての企画実施、自分が主に担当していますが、学芸員の資格を取得するための博物館実習の受け入れも行われるようになりました。個人的にはよく関与することの多い、プチギャラリーの展示もその変化の一つかと思えます。福島や沖縄の現地の写真を使った展示、学校の平和学習の展示などが行われるようになり、新たな展示の可能性を見せられつつあるように思います。今後も、ピースあいちの変化を楽しみつつ、活動できたらと思います。

資料館探訪 26

安重根(アンジュンゲン)義士記念館

ソウルの景勝の地南山(ナムサン)に安重根義士記念館がある。

安は1909年10月26日、ハルピンの駅構内で、韓国統監であった伊藤博文を銃で暗殺した。日本にとって安はテロリストであるが、韓国にとっては救国の義士である。

記念館のロータリーには太極旗を右手に持った安の像が佇立し、さらに安が書いた「国家安危勞心焦思」の碑も建っている。その碑には、薬指が小指と同じ長さの手形が押しあてられている。安の書には全てこの手形が押しあてられている。薬指の一部が欠けているのは、安が抗日闘争をしているときに、薬指を切り落とし、したたる血で太極旗に「大韓独立」の文字を書いたためという。

この記念館には安の達筆な墨書や肖像画など、安重根に関する資料が展示されている。私が一番興味を引かれたのは安が書いた「伊藤博文罪悪十五個条」である。

安は「大韓独立の聲が天国に聞こえてきたら私はきっと踊りながら万歳を叫ぶであろう」と言う遺言を残して、1910年3月26日、刑場の露に消えた。



(N)

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ぜひ「ピースあいち」の会員に!

開館13年目に入り、戦争と平和の資料館として社会的にも、ますます期待されつつあります。愛知県弁護士会の「人権賞」受賞は非常に励みになるものでした。3月に入り、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの中止やスタッフ会議の自粛などを行いながら開館しています。

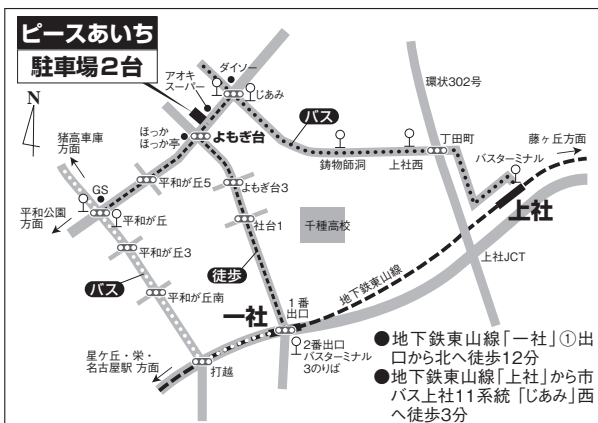
「ピースあいち」の基本財源は、入館料(大人300円・子供100円)と会員の皆さんの年会費(正会員6000円・賛助会員3000円)です。来館者数は、開館した2007年は約12,000人、以後は6,000人前後で推移してきました。

現在会員数は878名(正会員371名・賛助会員507名)ですが、「ピースあいち」の年間経費約1,200万円には大きく足りません。不足分は不確定な寄付金や助成金に頼っているのが現状です。自主財源の確立は、まず会員の拡大です。ぜひ多くの方に会員になっていただき「ピースあいち」を支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

【利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・  
冬季休館(12月28日～2020年1月6日)
- 入館料 大人300円 小中高生100円
- 常設展示「愛知県下の空襲」「戦争の全体像・15年戦争」「戦時下の暮らし」「現代の戦争と平和」、準常設展示「戦争と動物たち」「戦争と子どもたち」。ほかに、図書や戦争体験DVDのライブラリーもあります。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

交通のご案内



●編集後記●

初代館長の野間美喜子さんが急逝された。野間さんがおられなかったら当館の建設運動は始まらなかったし、篤志家の加藤たづさんに出逢わなかったら当館は生まれていない。仕事柄人脈の広いことから多くの人に声を掛け、人の輪が広がっていった。当館のボランティアは100人を数える。野間さんの強力なリーダーシップの下で試行錯誤を重ねながら運動の地固めをしていった。収入の一部は不確定な寄付金に頼る面もあるが、今は揺るぎも少ない。私たちは野間さんの遺志を継いで当館をいっそう拡大し発展させようと誓う。幽界で野間さんは見守って下さることだろう。

(S)